

## 発掘成果をふりかえって 2008

<http://www.kyoto-arc.or.jp>

(財)京都市埋蔵文化財研究所・京都市考古資料館



発掘調査の位置

2008年の発掘成果を紹介します。発掘調査は、現場での遺構検出のみならず、後の整理作業で見つかる成果も数多くあります。その一例が上里遺跡出土の炭化種実です。また、鉄道や道路のように、調査区の幅は狭いけれども、長い距離を調査することで遺跡全体の状況を把握できる調査もありました。



1 上里遺跡出土の炭化種実(顕微鏡写真) 西京区大原野上里南ノ町ほかから出土  
縄文時代晩期の集落内の溝に堆積した土から、コメ5粒とマメ数10粒が見つかった。放射性炭素年代測定で調べると、コメは弥生時代前期で、マメは縄文時代晩期と分析された。測定値には誤差も認められることから、コメも縄文時代にさかのぼる可能性がある。



2 西京極遺跡 右京区西院安塚町

弥生時代後期から古墳時代にかけての竪穴住居跡を、重なった状態で17棟発見した。限られた場所に長い間住み続けていたことがわかる。また、弥生時代の住居跡からは白い粘土のかたまりも見つかっており、建物の中で土器を作っていたと考えられる。



3 長岡京跡 南区久世東土川町

長岡京左京二条四坊で二条条間大路両側溝、六町の宅地内で掘立柱建物跡3棟と内溝を検出し、宅地利用の実態と条坊路の施行状況がわかった。二条条間大路北側溝からは「謹上...」と墨書きされた木製品が出土した。文書を入れるための箱の蓋とみられる。



4 平安京右京六条一坊三町跡 下京区中堂寺南町

京都市中央卸売市場で、平安時代前期の大型建物跡が見つかった。東西二間・南北三間以上（柱間2.4m）で東に庇が付く。朱雀大路沿いの特殊な立地で、大規模な邸宅か役所の可能性が高い。



5 平安京左京八条三坊四・五町跡 下京区東塩小路釜殿町ほか

京都駅構内で、鎌倉時代前半の園池の泉跡が見つかった。甕の口縁部を据えて、小石をすり鉢状に敷き詰めている。JR線と近鉄線に挟まれた調査区で、現在も継続して調査中である。



6 常盤仲之町遺跡・広隆寺旧境内 右京区太秦一ノ井町ほか

JR山陰線の調査で鎌倉時代の池跡が見つかった。城北街道に面し、嵯峨道にも近く、貴族の別業があった可能性がある。また飛鳥時代の層から、中が空洞の鑄型を用いた吹きガラスの玉が出土した。



7 平安京左京五条三坊九町跡 下京区童侍者町

室町時代の酒屋とみられる町屋建物を検出した。整然と並んだ埋甕は醸造用で、底が残っているものや抜き取られたものを合わせると推定60個近くあった。建物の中央で地下式倉庫も発見した。



8 史跡慈照寺旧境内（銀閣寺）左京区銀閣寺町 慈照寺境内

室町時代後期の石組溝と堤状の遺構を検出し、東山殿・慈照寺の北側の景観が明らかになった。石垣や石組溝は、東山殿の建物や庭園を自然災害から守るための防災施設の一部と見られる。



9 史跡本願寺境内・東市跡 下京区堀川通花屋町下町の本願寺門前町

本願寺参拝部棟の調査で土地利用の変遷がわかった。本願寺創建時の造成から寛永十三年の御影堂再建時の整地面までを検出した。写真は、江戸時代中期から後期の土器や瓦を廃棄した土坑。